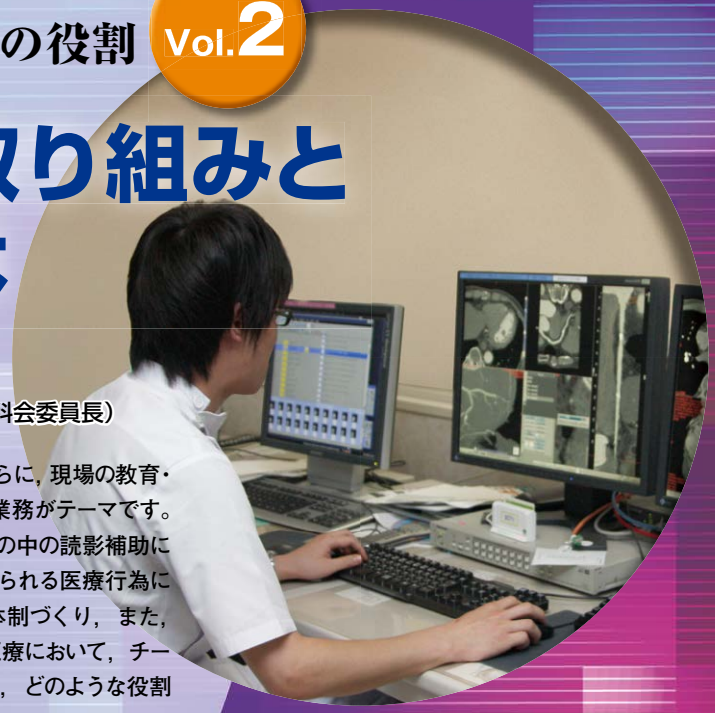
チーム医療における診療放射線技師の役割 Vol.2

読影補助業務への取り組みと期待される役割とは



企画協力：北村善明（公益社団法人日本診療放射線技師会理事）
加藤京一（公益社団法人日本診療放射線技師会読影分科会委員長）

チーム医療の推進と，それに伴う診療放射線技師の業務拡大内容の理解，さらに，現場の教育・対策などについて総合的に取り上げるシリーズ特集のVol.2は，読影補助業務がテーマです。6月号掲載のVol.1は，業務拡大全般について取り上げましたが，今回はその中の読影補助について，より詳しく報告します。読影という専門的な医学知識や経験が求められる医療行為に携わる診療放射線技師の責任は重大であり，業務内容の明確化や院内の体制づくり，また，教育・研修・評価の実施等への取り組みが必要となるでしょう。これからの医療において，チーム医療の推進という流れの中で診療放射線技師にどのような役割が期待され，どのような役割を担っていくべきなのか，考察する機会となれば幸いです。

シリーズ特集 チーム医療における診療放射線技師の役割 Vol.2 読影補助業務への取り組みと期待される役割とは

1. 総　論：診療放射線技師の読影補助業務について

加藤　京一　日本診療放射線技師会読影分科会委員長（昭和大学大学院保健医療学研究科）

これまでの経緯

2007年12月28日に，厚生労働省医政局長から都道府県知事宛に，「良質な医療の継続的な提供のため，医療関係法令などに認められている範囲の中で，各医療機関の実情に応じて関係職種間で適切に役割分担を図り業務を行うことが重要」という通達がなされた。これを受けて，医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進を図るために，2009年8月以降に東京大学大学院・永井良三教授（循環器内科）を中心に会議が開催され，2010年3月19日のチーム医療の推進についての報告書を元に，同年5月12日に「チーム医療推進会議」が結成された。

チーム医療検討会の報告書（2010年4月30日付け）によると，「チーム医療」とは「多様な医療スタッフが，各々の高い専門性を前提に，目的と情報を共有し業務を分担しつつお互いに連携・補完し合い，患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」とされている。そして，「チーム医療」の効果として，①医療・生活の質の向上，②医療従事者の負担軽減，③医療安全の向上を挙げ，チーム医療を推進するためには，①各医療スタッフの専門性の向上，②各医療スタッフの役割の拡大，③医療スタッフ間の連携・補完の推進という方向でさまざまな取り組みを進める必要があると示された。

診療放射線技師については，①画像診断における読影の補助を行うこと，②放射線検査等に関する説明・相談を行うことが具体例として挙げられ，診療放射線技師を積極的に活用することが望まれるとされている。

〈0913-8919/13/￥300/ 論文 /JCOPY〉